

ガスストーブ、石油ストーブ

省エネ法では、ガスストーブの「密閉式」、石油ストーブの「密閉式」、「半密閉式」が対象になっています。

暖房機の種類

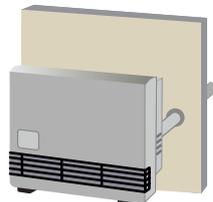
給排気方式

- **開放式**：空気を屋内からとり、排気も屋内に出す方式。
- **密閉式**：給排気筒によって、空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式。
- **半密閉式**：空気を屋内からとり、排気を排気筒によって屋外に出す方式。

伝熱方式

- **強制対流式**：ファンによって室内の空気を強制的に循環させ、部屋を暖める方式。
- **自然対流式**：空気の温度差によって自然に室内の空気を循環させ、部屋を暖める方式。
- **放射式**：燃焼ガスの熱を放射熱として利用し、部屋を暖める方式。

省エネ法対象のストーブ例



FF式暖房機（密閉式強制対流式）ガス・石油



煙突式（半密閉式放射式）石油のみ

給排気筒などが無い開放式の暖房機は、省エネ法の対象ではありません。



強制対流式



自然対流式



放射式

ガスストーブ 掲載製品

都市ガス13A又はLPガスを使用するFF式暖房機を掲載しています。ただし、開放式、半密閉式のもの是对象外です。

ガスストーブ 区分

適用畳数によって区分を行っています。

木造9 畳コンクリート13 畳まで	木造11 畳コンクリート15 畳まで
木造13 畳コンクリート18 畳まで	木造14 畳コンクリート19 畳まで

FF式暖房機（密閉式強制対流式）：密閉式とは空気を屋外からとり、排気を屋外に出す方式で、強制対流式とはファンを使って強制的に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

ガスストーブ 一覧表の各種表示について

● 目標年度

トップランナー基準を達成すべき年度で、ガスストーブの目標年度は2006年度です。

● ラベル印刷

省エネラベリング制度を表示した省エネラベル（簡易版ラベル）を印刷できます。

● 省エネルギーラベリング制度

省エネ法で定めた省エネ性能の向上を促すための目標基準（トップランナー基準）を達成しているかどうかをラベル（省エネルギーラベル）に表示するものです。

● 省エネ性マーク

トップランナー基準を達成した（省エネ基準達成率100%以上）製品についてはグリーンのマーク（●e）が表示され、未達成（省エネ基準達成率100%未満）の製品についてはオレンジ色のマーク（○e）が表示されます。

● 省エネ基準達成率(%)

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。ガスストーブの密閉式強制対流式の目標基準値は設定されています。

● エネルギー消費効率(%)

ガスストーブのエネルギー消費効率は、熱効率(%)を用います。

熱効率(%) =

$$\frac{(\text{消費したガスの発熱量} - \text{排気ガスが持ち去る熱量})}{\text{消費したガスの発熱量}} \times 100$$

● ガス種

ガスの種類には、都市ガスとプロパンガスがあります。都市ガスはさらに7種類に分けられ、13Aはその種類の1つで、天然ガスとも呼ばれています。プロパンガスはLPGやLPガスと呼ばれています。ガス種によって、ガス器具の仕様が異なります。

● 暖房出力(kW)

最大・最小燃焼時に室内に与える、単位時間当たりの熱量です。暖房出力の目安は、温暖地の木造の場合398W/畳、コンクリートの場合288W/畳です。

● 暖房の目安(畳)

暖房の目安は、温暖地（室内外の温度差が15°Cの地域、東京・大阪など）を基準にしています。「木造」とは木造戸建住宅、「コンクリ」とはコンクリート集合住宅を指します。いずれも一重窓で断熱材なしの建物です。断熱材を施してある場合は、約1.2倍の広さまでが目安となります。寒冷地（室内外の温度差が30°Cの地域、札幌など）の木造住宅は二重窓で断熱材が施されており、木造で約1.2倍、コンクリートで約1.5倍の広さまでが目安となります。

● ガス消費量(kW)

最大・最小燃焼時において、単位時間当たりに燃焼で消費するガスの熱量を表しています。

● 消費電力(W)

最大燃焼時の消費電力を表示しています。

● 備考

複数の機能を有する機器は、主たる機能を表示します。

● 本サイト掲載日

製品の登録日を掲載し、機種名(型番)の前に「New」を付けて、掲載日より1ヶ月表示します。並べ替え機能で新着情報を上から順に並べ替えることができます。

● 更新日

製品情報に修正が入った際の更新日を掲載し、機種名(型番)の前に「Update」を付けて、更新日より1ヶ月表示します。ただし、本サイト掲載日から1ヶ月以内の更新は、「New」が優先されます。並べ替え機能で更新日順に並べ替えることができます。

● JANコード

国際的な共通商品コードです。13桁の数字で表示し、その商品がどこの国の、どこの企業の、どの商品であるかを識別できます。

石油ストーブ 掲載製品

FF式暖房機及び半密閉式暖房機です。ただし、開放式のもの、最大燃料消費量2.75L/h 超のFF式暖房機、最大燃料消費量4.0L/h 超の半密閉式暖房機は対象外です。特注生産品、特殊仕様品等は対象外です。

石油ストーブ 区分

給排気方式、伝熱方式、適用畳数によって区分を行っています。

区分名	備考
FF/木造9畳コンクリ13畳まで	石油FF式暖房機（木造8畳、コンクリート13畳まで）
FF/木造11畳コンクリ15畳まで	石油FF式暖房機（木造11畳、コンクリート15畳まで）
FF/木造13畳コンクリ18畳まで	石油FF式暖房機（木造13畳、コンクリート18畳まで）
FF/木造15畳コンクリ21畳まで	石油FF式暖房機（木造15畳、コンクリート21畳まで）
FF/木造17畳コンクリ23畳まで	石油FF式暖房機（木造17畳、コンクリート23畳まで）
FF/木造21畳コンクリ29畳まで	石油FF式暖房機（木造21畳、コンクリート29畳まで）
FF/木造22畳コンクリ30畳以上	石油FF式暖房機（木造22畳、コンクリート30畳以上）
放射式/木造15畳コンクリ21畳まで	石油半密閉式暖房機・放射式（木造15畳、コンクリート21畳まで）
放射式/木造17畳コンクリ24畳まで	石油半密閉式暖房機・放射式（木造17畳、コンクリート24畳まで）
放射式/木造20畳コンクリ28畳まで	石油半密閉式暖房機・放射式（木造20畳、コンクリート28畳まで）
自然対流式/木造15畳コンクリ21畳まで	石油半密閉式暖房機・自然対流式（木造15畳、コンクリート21畳まで）
自然対流式/木造17畳コンクリ24畳まで	石油半密閉式暖房機・自然対流式（木造17畳、コンクリート24畳まで）
自然対流式/木造20畳コンクリ28畳まで	石油半密閉式暖房機・自然対流式（木造20畳、コンクリート28畳まで）
自然対流式/木造21畳コンクリ29畳以上	石油半密閉式暖房機・自然対流式（木造21畳、コンクリート29畳以上）

FF式暖房機（密閉式強制対流式）：密閉式とは空気を屋外からとり、排気を屋外に出す方式で、強制対流式とはファンを使って強制的に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

半密閉式暖房機：半密閉式とは空気は室内からとり、排気は屋外に出す方式です。

放射式と自然対流式：放射式は主として燃焼ガスの熱を放射させ、部屋を暖める方式で、自然対流式は加熱された空気の温度差により、自然に空気を循環させ、部屋を暖める方式です。

石油ストーブ 一覧表の各種表示について

● 目標年度

トップランナー基準を達成すべき年度で、石油ストーブの目標年度は2006年度です。

● ラベル印刷

省エネラベリング制度を表示した省エネラベル（簡易版ラベル）を印刷できます。

● 省エネルギーラベリング制度

省エネ法で定めた省エネ性能の向上を促すための目標基準（トップランナー基準）を達成しているかどうかをラベル（省エネルギーラベル）に表示するものです。

● 省エネ性マーク

トップランナー基準を達成した（省エネ基準達成率100%以上）製品についてはグリーンのマーク（●e）が表示され、未達成（省エネ基準達成率100%未満）の製品についてはオレンジ色のマーク（○e）が表示されます。

● 省エネ基準達成率(%)

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。石油ストーブは、給排気方式や伝熱方式によって分けられた区分ごとに、目標基準値や目標基準値算定式は設定されています。

● エネルギー消費効率(%)

石油ストーブのエネルギー消費効率は、熱効率(%)を用います。

熱効率(%) =

$$\frac{(\text{消費した石油の発熱量} - \text{排気ガスが持ち去る熱量})}{\text{消費した石油の発熱量}} \times 100$$

● 暖房出力(kW)

最大・最小燃焼時に室内に与える、単位時間当たりの熱量です。暖房出力の目安は、温暖地の木造の場合398W/畳、コンクリートの場合288W/畳です。

● 暖房の目安(畳)

暖房の目安は、温暖地（室内外の温度差が15°Cの地域、東京・大阪など）を基準にしています。「木造」とは木造戸建住宅、「コンクリ」とはコンクリート集合住宅を指します。いずれも一重窓で断熱材なしの建物です。断熱材を施してある場合は、約1.2倍の広さまでが目安となります。寒冷地（室内外の温度差が30°Cの地域、札幌など）の木造住宅は二重窓で断熱材が施されており、木造で約1.2倍、コンクリートで約1.5倍の広さまでが目安となります。

● 燃料消費量(kW)

最大・最小燃焼時において、単位時間当たりに燃焼で消費する灯油の熱量を表しています。

● 消費電力(W)

点火時と最大・最小燃焼時の消費電力を表示しています。

● 備考

複数の機能を有する機器は、主たる機能を表示します。

● 本サイト掲載日

製品の登録日を掲載し、機種名(型番)の前に「New」を付けて、掲載日より1ヶ月表示します。並べ替え機能で新着情報を上から順に並べ替えることができます。

● 更新日

製品情報に修正が入った際の更新日を掲載し、機種名(型番)の前に「Update」を付けて、更新日より1ヶ月表示します。ただし、本サイト掲載日から1ヶ月以内の更新は、「New」が優先されます。並べ替え機能で更新日順に並べ替えることができます。

● JANコード

国際的な共通商品コードです。13桁の数字で表示し、その商品がどこの国の、どこの企業の、どの商品であることを識別できます。

上手な選び方

使用地の気候、建物の構造、使う部屋の広さに合ったものを選びましょう。

暖房機の種類

給排気方式と熱交換方式によって、いろいろな種類のストーブがあります。このカタログは省エネ法対象の機器を掲載しています。(下図参照)

エネルギー消費効率

エネルギー消費効率が100%に近いほど、省エネ性が優れた機器といえます。

省エネ基準達成率

その製品が属するトップランナー基準の区分の目標基準値を、どの程度達成しているかを%で示します。

ガスストーブのFF式(密閉式)の目標基準値は82.0と設定されています。

石油ストーブは、給排気方式や伝熱方式によって分けられた区分毎に、目標基準値や目標基準値算定式が設定されています。

例

石油FF式暖房機(強制対流式) 目標基準値 86.0

石油半密閉式暖房機(放射式) 目標基準値 69.0

部屋の広さ

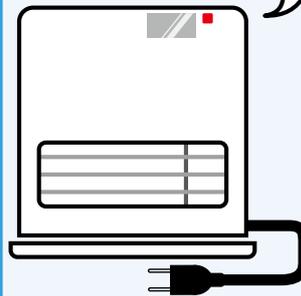
「暖房の目安」を参考にして、部屋の広さにあったものを選びましょう。「木造○畳、コンクリ○畳まで」は、温暖地(室内外の温度差が15°Cの地域、東京・大阪など)と寒冷地(室内外の温度差が30°Cの地域、札幌など)では目安となる部屋の広さが異なります。

※このカタログでは温暖地を基準にしています。

上手な使い方

使い方しだいで燃料の無駄を省くことができます。

早めのオフ!



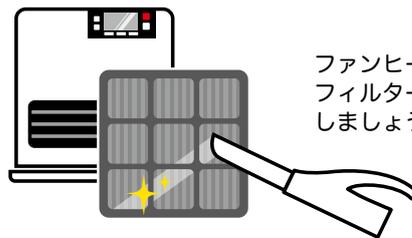
おすすめ

人の居ない部屋は必ず消しましょう。お出かけや就寝の15分くらい前に消しましょう。

1日あたり1時間運転を短縮した場合、年間でガスおよそ12.68立方メートルの省エネ。ガス料金に換算すると約1,750円の節約になります。

※ガス 138円/立方メートルとした場合(平成23年版ガス事業便覧13Aのガス料金平均単価より)

昼間はカーテンを開けて日射を取り入れ、日没後はカーテンを閉めましょう。カーテンは長い厚手のものにすると効果的です。

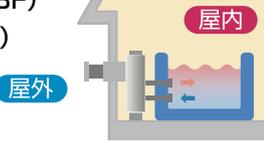
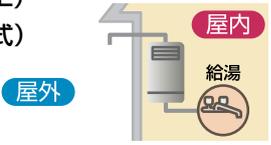
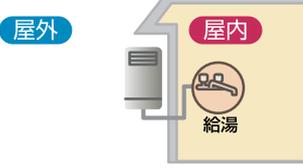


ファンヒーターはフィルターのお掃除をしましょう。

室内の温度は20°Cを目安に設定しましょう。適度な湿度を保ちましょう。湿度が低いと寒く感じ、高いと温かく感じられます。

ガス・石油機器について

燃焼方式による給排気方式の区分

●給排気方式		●燃焼方式 (例)	●燃焼方式 (例)
開放式	空気を屋内からとり、排気も屋内に出す方式	自然燃焼方式 	強制燃焼方式 
密閉式	空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式	自然給排気式 (BF) (自然燃焼方式) 	強制給排気式 (FF) (強制燃焼方式) 
半密閉式	空気を屋内からとり、排気を屋外に出す方式	自然排気式 (CF) (自然燃焼方式) 	強制排気式 (FE) (強制燃焼方式) 
屋外式 (RF)	空気を屋外からとり、排気も屋外に出す方式		

給排気方式とは

給排気方式は、「給気方式」と「排気方式」とを組み合わせた言葉です。給排気方式は、ガスや石油を燃焼させるのに必要な空気をどこからとり入れ、排気ガスをどこへ出すかによって異なり、「開放式」「密閉式」「半密閉式」「屋外式」があります。「開放式」「密閉式」「半密閉式」は、機器が屋内にあります。

燃焼方式とは

燃焼方式には、「自然燃焼方式」と「強制燃焼方式」があります。「自然燃焼方式」は、燃焼の給排気を自然の通気力に任せる方式です。「強制燃焼方式」は燃焼の給排気をファンなどを使って強制的に行う方式です。

●ガスの種類

ガスの種類には、大きく分けて都市ガスとLPガス (LPG) があります。都市ガスはさらに7種類に分けられ、12A、13A はその種類の1つで、天然ガスとも呼ばれています。LPガスはプロパンガスを主成分としています。ガス機器には、その機器に合うガスの種類がラベルで表示されています。家庭で使用するガスの種類に合うものかどうか確認して下さい。

省エネ性能一覧における記載値

ガス消費量やエネルギー消費効率などの値は、ガスの種類によって異なります。本カタログに記載されている数値は、都市ガス13Aに対応した値です。

●石油と灯油

石油 (原油) は、製油所でそれぞれ用途に適したLPガス、ガソリン、灯油、軽油等の石油製品につくりかえられます。家庭で使われている石油機器は、灯油を使用します。石油ストーブ等にガソリンを使用すると、火災になるおそれがあります。

●その他の用語

●ガス消費量 (kW)

ガス機器が単位時間当たりの燃焼で消費するガス量を、単位時間当たりの熱量(kW)で表しています。例えば、1時間に1m³の都市ガス(13A)を消費する機器であれば、ガス消費量は約13kW*となります。

*都市ガス(13A)の場合、ガス発熱量=46.05MJ/m³
3.60MJ/kWhより、ガス発熱量=46.05/3.60=12.79(kW)

●燃料消費量 (L/h)

石油機器が単位時間当たりの燃焼で消費する灯油量 (L/h) で表しています。

●エネルギー消費効率 (熱効率)

一般的にガス・石油機器のエネルギー消費効率は熱効率*で表します。消費したガス・石油の発熱量のうち、排気ガスが持ち去る熱量 (逃げた熱量) が少なく、対象物に与えた熱量が多くなると、熱効率は高くなります。熱効率が100%に近づくほど、省エネ性が高くなります。

*ガスこんろのグリル部、オープン部のエネルギー消費効率は、熱効率ではなく、1回当たりの調理に要するガス消費量で表し、その値が小さいほど、省エネ性が高くなります。

$$\text{熱効率 (\%)} = \frac{\text{対象物に与えた熱量}}{\text{消費したガス・石油の発熱量}} \times 100$$

